

社会実験結果の共有、社会実験参加者による「実際に参加してみてやってみたいこと」によって得た発見や課題の報告を踏まえ、今後の公共空間の使い方をA班、B班に別れて考えてみました。

## “情報共有”についての意見

- ・公共空間を利活用する際に、仲間を募ったり、使い方などを共有できるプラットフォームが必要。
- ・場所が持つ歴史性を活かした利活用が必要。
- ・日常的な使いこなしについて共有するワークショップや多世代間の交流を促す工夫が必要。

### A班の具体的な意見

広報の際は「やってみたいことを実践しよう！」と呼びかける。実践することのメリットも合わせて示す	公園の利活用状況など情報共有アプリを作成する。(LINEのオープンチャットなど)	居心地の良い暮らしは「自分」でつくれることを分かってもらえるよう伝える
公共空間の利活用を知るワークショップは必要	様々な人が興味を持つようInstagramなどをつくる	SNSを使って情報共有をする(使用できる公共空間の予約状況など)

### B班の具体的な意見

その場所にまつわる歴史を知ってもらうことが必要	情報共有が必要(SNSではなく昔の掲示板のような物)	一人では利活用の取組を始めにくいので仲間づくりが必要
クリスマスマーケットのように、場所のいわれに関係のあるイベントを風物詩的に定着させるよう情報発信することが大切	河川沿いの遊歩道のことを知らない人が多いのではないか	公園など利活用する公共空間の案内所を設置

## “ルール・仕組みづくり”についての意見

- ・「できない」ではなく「できる」ルールづくりとして、新しい利活用の仕組みが必要。
- ・公園などの空間ごとに利活用のルール設定が必要。
- ・利活用の方向性を検討する“リーダー会議”など利活用する人側の体制が必要。

### A班の具体的な意見

居心地の良さを自分の手でつくれる仕組みが必要	「やりたいこと」と「できる人」をマッチングさせる仕組みが必要	例えばアルコール販売については1人2缶までなどルールを設ける
ルールに沿って利活用していることがわかるよう、許可証を発行するなど工夫が必要	海外の公園のように音楽OKエリアを作る	公園の規模別にできることを変える
利活用のリーダー会議の開催	飲食販売店が出店する際にはルールを設定する必要がある	

### B班の具体的な意見

「できない」ルールではなく、「できる」ルールをつくる	例えばアルコールを飲めるようにするのであれば、他人に迷惑をかけないためのルールをつくる	公園ごとにそれぞれ緩和のルールをつくる
----------------------------	---	---------------------

社会実験結果の共有、社会実験参加者による「実際に参加してみてやってみたこと」によって得た発見や課題の報告を踏まえ、今後の公共空間の使い方をA班、B班に別れて考えてみました。

## “インフラやイス・テーブルなどの道具”についての意見

- ・テントなどの什器といった道具や、水道・電気(発電機)などのインフラについては、事務局(市)で準備して欲しい。
- ・利活用する人同士で、道具をシェアする仕組みが必要。

### A班の具体的な意見

事務局側で可動式テント・映画上映セット、水道・発電機などを用意するのはどうか

利活用者で道具をシェアできる仕組みが必要

イス・テーブルなどは貸出品としてあった方がいい

### B班の具体的な意見

レジャーシート・バトミントンセットなどの貸し出し品があるとよい

## “モビリティ”についての意見

- ・既存の街路空間の魅力を活かし、自転車や多様なモビリティで周遊しやすい空間構成の構築が必要。

### A班の具体的な意見

駐車場、モビリティステーションの整備

シェアサイクルで周遊

E-bikeで周遊

### B班の具体的な意見

自転車で環濠エリア内を回りやすくする

道路に空間はあるが自転車などを停めることができない

大小路は歩道も広くポテンシャルは高い

自転車タクシーがもっとあればよい(講習が必要)

## その他の意見

### A班の具体的な意見

昔遊びなどの実施(遊びなどを通じて世代間の交流が生まれる)

シェア型本棚の設置(子供達のコミュニケーションが生まれる)

### B班の具体的な意見

お茶ができるカフェ(堺の歴史も知ることができるコンテンツなどあれば良い)

内川河川敷は夜間は暗いため街灯を設置するなどして歩けるようにする方が良い

内川河川敷には桜がきれいな所があることを知ってもらおう